

作品 No.79



生きものの“つぶやき”:

「きもだめしの際は私をお呼びください。」

エッセイ:

この子達と最初に出会ったのは、小学 4 年生の時。本で夏休みの自由研究の題材を探していたら目に飛び込んできました。クリクリの目、奇妙な手、スケスケの体、すべてに衝撃を受けました。すぐに田んぼに走っていき水の中をのぞき込んだが、「ミジンコ」という名の通り見えませんでした。どうしても見たくて、学校から顕微鏡を借りて見てみたら、本当にスケスケでびっくりしました。その後も研究を続け、目が 1 つだったり(正面はけっこう恐怖)、環境が悪くなると休眠卵という丈夫な卵を作ったり、水をきれいにする力を持っていることを知りました。水環境を良く保つには、ミジンコが必要不可欠だということがわかったので、ミジンコについてもっと知る必要があると思いました。そして、今もたくさんの衝撃を受けながらミジンコの研究を続けています。

「水環境を良くするために今日も小っちゃいスケスケの体でがんばっています。」by ミジンコ (391 字)

生きものの紹介:

オカメミジンコ。十二瀬で採集。食べ物は植物プランクトン。体長は約 3mm。

撮影場所・日時:

新潟県新潟市自宅・2019 年 10 月 24 日

応募者の自己紹介:

1. 小早川 莉穂 (こはやかわ りほ) / 新潟県立新発田高等学校 2 年
2. 自然科学部生物班、化学班所属
3. 将来の夢: ミジンコの研究者、環境問題解決の役に立ちたい。

審査員よりひとこと

ミジンコ愛に満ちたエッセイですね。写真も幻想的に撮れていて素敵です。